

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

2026～2027年度RI会長メッセージ

WEEKLY REPORT

AUGUST.19.2026 第2195回

UEDA EAST 上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

会長／田守正彦 幹事／水出博史 会報委員長／柳澤 誠

例会：毎週水曜日 午後12:30～1:30

会場：上田東急REIホテル

事務局：上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F

TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>

E-mail: uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

塩尻の蚕種業



藤本工業株式会社 代表取締役

佐藤 修一様

養蚕の起源は紀元前2750年頃の中国浙江省と考えられ、日本へは弥生時代に伝わったといわれています。養蚕いわゆる蚕糸業は、蚕の卵を作る蚕種業、孵化した蚕を育てて繭を作る養蚕業、蚕から糸を作る製糸業に分かれますが、ここ塩尻では蚕種業が盛んで、安土・桃山時代の文禄年間（1592～1596年）ころ始まったといわれています。

この地では「大林丸」「たづこ」「青白(セイハク)」「黄金生(オウゴンセイ)」「掛合」「又昔」など数多くの蚕の新種を育成し、江戸後期の文化年間（1804～1818年）には製糸方法を普及させ、「登為糸(ノボイト)」という糸に等級を付け優劣を明らかにして京都西陣で大好評を博しました。信州最古といわれる「新撰 養蚕秘書」「養蚕後篇」、版木で大量に刷られ蚕種と共に配られた技術書の「蚕(コ)かいの学(マナビ)」、フランス語やイタリア語にも翻訳して読まれた「養蚕教弘録」などの養蚕書も著わされました。江戸末期から明治初期、ヨーロッパで蚕の病気である微粒子病が蔓延して壊滅した時、日本各地から蚕種が輸出され、その3割前後を上田産が占めました。多くはこの地で製造されたものであり「日本一の蚕種の郷」といわれました。明治初期、蚕種業に関する条例、規則、制度などを確立するため大蔵省から全国の14名と共に蚕種大総代社などが作られるなど、この地では多くの人々の努力、研鑽によって蚕種業が栄えたのです。

その理由として、日当たりの良い南向きの山がありそこに作られた段々畑や、上流から肥沃な土壌が運ばれた千曲川の氾濫地がありそこに作られた桑畑に、岩鼻からの強い西風によって葉に害虫が付きにくく良質の桑が取れたという地理的な要因、古くから相互扶助的な「講」があったという経済的な要因があります。また、蚕種を作りながら販売もする「蚕種商い」だったため、顧客の要望や市場の変化に素早く対応できたということも大きな要因だったと考えられます。日本の蚕種業は江戸中期から茨城県の結城地方、福島県の信達(シンダツ)地方、そして上田地方で産地を形成していましたが、結城地方や信達地方は大洪水や飢饉で衰退したため上田地方が主導しました。

蚕種業、養蚕業、製糸業全てが盛んだった上田には、1892（明治25）年に蚕種学校として全国に先駆けて小県蚕種学校（現 上田東高等学校）が、1910（明治43）年に日本最初の蚕糸専門学校である上田蚕糸専門学校（現 信州大学繊維学部）が設立されました。蚕糸業が栄えたことによって鉄道、倉庫、金融などの他の産業も発展し、さらに文化、芸術、スポーツなども広まり、上田は「蚕都上田」といわれて大いに繁栄しました。しかし、当時の基幹産業だった製糸業は戦時中は国の管理下におかれ苦難の道をたどり、海外から安価な糸が輸入されたり1800～1900年代には様々な化学繊維が発明されるようになると急速に衰退しました。

現在、葉や昆虫食、災害時に人を感知する能力の活用など蚕の可能性が研究されているとのことです。

例会日誌

8月19日(水) 晴れ

2026～2027 No.6

- 司 会 橋詰洋平君
- 斉 唱 「奉仕の理想」
- ゲ ス ト 佐藤修一様(藤本工業株式会社 代表取締役)
- ビジター 鈴木松美様(ひょうごロータリークラブ、日本ロータリー・ハムクラブ理事)
鈴木久美子様(奥様)
向田隆夫君(フェローシップ会員)
- 8月慶祝 【周年祝い】
手塚たつ子様 21年 工藤 恒君 9年

(慶祝の続き)

- 関 邦幸君 8年
【結婚記念日祝い】
- 神津 健君・美花様 8/8
【誕生日祝い】
- 手塚多佳彦君 8/5 竹花 強君 8/22
- 宮下博道君 8/22
- ラッキー賞 宮下博道君(季節のアレンジ花)
- 友 愛 賞 鈴木松美様・久美子様(工藤君より樽奈良井宿のどぶろく)

(友愛賞の続き)

佐藤修一様(蓑輪君より奈良土産の奈良漬け)
蓑輪「8月15日奈良の大文字送り火を見て来ました。神道・仏教合同慰霊祭との事」
向田隆夫君(蓑輪君より長岡花火大会のお土産柿の種)
依田育也君(宮下博道君より北海道土産の限定チエルシー)
増田篤子さん、関 邦幸君
(水出君より長岡花火大会のお土産。花火形のお酒、コーヒー)



■会長挨拶

田守 正彦 会長



皆さん、こんにちは。先週はお盆でしたが、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。お墓参りをされた方、実家に帰られた方、久しぶりにお子さんやお孫さん、兄弟、親戚と顔を合わせた方もいらっしゃると思います。

お盆は、もともとご先祖様を迎え、供養する日本の大切な習慣の一つです。お盆は「亡くなった人を偲びながら、今、生きている人とのつながり確かめること」ができるからです。親族が集まると、「最近どうしてる？」

「子ども、大きくなったね」「そういえば、おじいちゃんはこの人だったね」そんな何気ない会話が始まります。昔の話を聞いて、「そんなことがあったのか」と初めて知ることもあります。考えてみれば、不思議なものです。

血のつながった親族でさえ、会って話をしなければ、お互いのことを知らないままになってしまいます。今は電話もLINEもあります。いつでも連絡できる便利な時代です。でも、「連絡が取れること」と「顔を合わせることは、やはり違います。同じ場所に集まり、同じものを食べ、昔話をして笑う。そこに、人と人とのつながりを深める力があるのだと思います。

これは、私たちロータリーにも通じるのではないのでしょうか。毎週例会で顔を合わせていますが、実は知らないことがたくさんあります。どんな仕事をしているのか。どんな趣味があるのか。どんな経験をしてきたのか。一つ知るだけで、その人との距離が少し縮まります。そんな積み重ねが、クラブの親睦につながるのではないのでしょうか。「人と人との縁は、会わなければ薄れていきます。しかし、会って話せば、また深くなる。」お盆を

過ぎて改めてそんなことを感じました。本日も、せっかく皆さんがこうして集まっています。ぜひ隣の方と、いつもより一言多く話をして帰っていただければと思います。本日もよろしくお願いいたします。

■幹事報告

水出 博史 幹事

- ・米山奨学会よりハイライトよねやま317号が届く。
- ・米山梅吉記念館より秋季例祭ご案内と支援依頼が届く。
- ・地区大会実行委員会より、地区大会のご案内が届く。

10月17日(土)、18日(日) 飯田文化会館

- ・RLI委員会よりRLIパートⅠのご案内が届く。

9月27日(日) 塩尻市市民交流センター

- ・小さな親切運動より広報誌夏号が届く。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	52	47	14	—	70.21%
前々回	52	47	17	11	87.23%

ニコニコBOX

(敬称略)

鈴木松美(ひょうごロータリーEクラブ)、向田隆夫
飯島(洋)、石井、上條、工藤、倉島、後藤、小林
佐藤、塩之入、関、竹内、玉井、田守、塚田、中嶋
舟見、水出、蓑輪、宮澤、村上、母袋(卓)、柳澤亨
山寺、渡辺、事務局 中村

※鈴木松美様・久美子様/本日はお招きありがとうございます。一年ぶりで皆様にお目にかかれて大変嬉しいです。

※向田隆夫君/1年ぶりです。鈴木先生ご夫妻共々よろしくお願いします。

※母袋卓郎君/JP3RAP 日本ロータリーハムクラブ鈴木さん奥様、ようこそ上田東RCへ。HAMの免許お持ちの方、ぜひご入会を。

※飯島洋一君/佐藤さんの卓話、楽しみにしております。

※竹内 強君/佐藤さん本日はようこそ！お忙しい中ありがとうございます！

※蓑輪佳明君/夏休み、ゆっくり楽しみました。休み明け『何でこんなに忙しいのだ…』

本日の金額/37,000円 累計/242,000円

●1分間スピーチ

工藤 恒君



周年祝いありがとうございます。
入会は、10年前。柳澤亨さんと塩之入永子さんにご推薦いただきました。「素敵な方達に出会えるよ」とのこと。サマーナイトが初日で、ステージの上で、皆さんで唄っていて、気がついたらステージに立って唄っていました。「唄の好きなクラブなんだな」というのがその時の印象でしたが、それが「コールウエルク」で、10年続けています。入会しなければ出会えなかった素敵な方達に出会えた事が、一番です。

[次週のプログラム] 9月2日(水) 慶祝、ボーイスカウト・ガールスカウト団委員長様